

<https://fukuokae.hosp.go.jp/>

福岡東医療センター地域連携 広報誌

ちどり

Vol. **61**
JANUARY
2026



Contents

特集：令和7年度手術室インフラ整備について

特集：手術室改修について

- チーム医療(小児科)
- 院内おすすめスポット
- 第79回国立病院総合医学会報告
- 地域連携室だより(総合支援センタートピックス)
- 古賀市健康福祉まつりについて

2026新年のご挨拶



病院の基本理念

「患者よし、職員よし、病院よし」

病院の運営方針

- 病む人の人権を尊重し良心的な質の高い医療を提供します
- 安全で心温まる医療を提供します
- 臨床研究を推進し医学・医療の進歩に貢献します
- 教育研修を通して人材育成に努めます
- 新しい医療情報を発信し地域医療の発展に貢献します
- 職員が一体となり健全な病院経営に努めます



2026新年あけまして おめでとうございます

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、よい年未年始をお過ごしになったことと存じます。今年の年未年始は9連休であったため、ご家族とゆっくりお過ごしになった方も多いのではないのでしょうか。

2026年は「丙午(ひのえうま)」の年に当たります。丙(ひのえ)は十干の3番目で「火」の要素を持ち、太陽や明るさ、生命のエネルギーを表すとされています。また、午(うま)は古くから人とともに生き、駿足と強い独立心を持ちながら人を助ける存在として親しまれてきました。このため、丙午の年は「勢いとエネルギーに満ち、活動的になる年」と考えられています。干支にあやかり、元気を出してこの1年を活動的に過ごしていきたいと思えます。

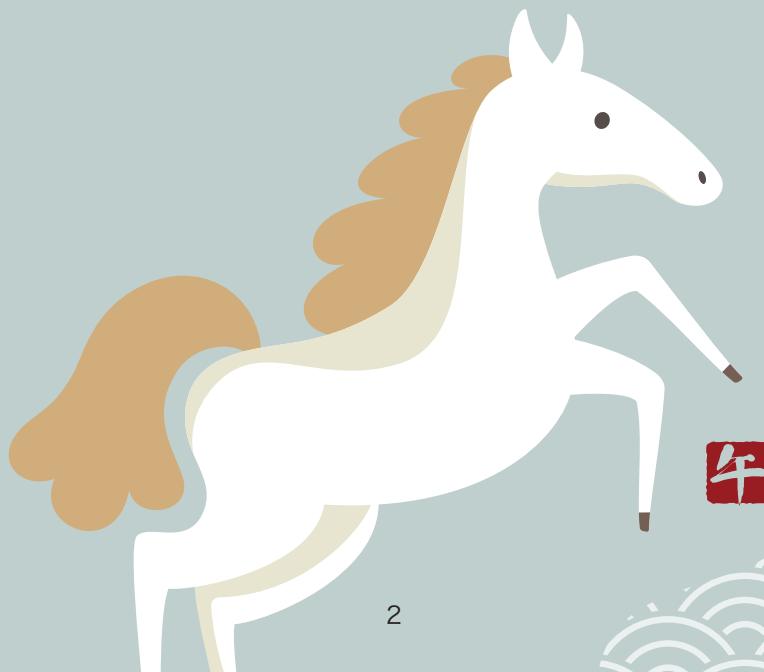
さて、2025年を振り返りますと、年間目標として「地域医療を支える病院として成長する」を掲げ、断らない医療の推進や返書作成の徹底に取り組んでまいりました。救急車の応需率は95%前後に上昇し、退院患者さんの返書率も100%に近づいています。また、10月には当院として初めて近隣医療機関の先生方をお招きし、「地域医療連携の会」を開催いたしました。当日は80名を超える方にご参加いただき、交流を深める良い機会となりました。さらに、当院の病院食がおいしいと、うえやまもち先生にモーニング誌『クッキングパパ』で取り上げていただいたことも、うれしい話題でした。

2025年は大型投資を行った年でもありました。2月の電子カルテ更新、10月の手術室増室・インフラ整備、放射線治療装置(リニアック)の更新を実施しました。医療スタッフについても、コメディカルを中心に、この3年間で計36.5名の定数増を機構本部より認めていただきました。これらが実現できたのは、2024年度までの経営状況が良好であった結果であり、日々努力して下さっているスタッフの皆さんに深く感謝しています。今後は新たな医療資源を活用し、診療の効率化と安全性の向上に努め、より良い医療を提供することで、「地域医療を支える病院として成長する」ことにつながっていきたくと考えています。

しかしながら、2025年度の経営状況については、外来患者数・入院患者数ともに前年と比べて大幅な減少傾向にあり、非常に厳しい状況です。医療の質が低下していないか、患者さんや地域の医療機関の皆様のご要望に十分にお応えできているかどうかなど、改めて検証が必要であると考えています。地域に必要とされる病院であり続けられるよう、今後も職員一同努力してまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



なかね ひろし
院長 中根 博



Activities Introduction: 1

令和7年度手術室インフラ整備について

統括診療部長

うちやま

ひであき
秀昭

令和7年10月、当院の手術室インフラ整備がついに完了し、10月6日には新設した手術室5（下写真）のオープニングセレモニーを執り行いました。手術室は4室から5室へと増え、急患手術への迅速かつ柔軟な対応が可能となりました。

無影灯はハロゲンからLEDへ更新され、省エネルギー化による環境負荷の軽減やSDGsへの貢献が期待されます。また、新たに導入した映像システム（右写真）により、すべての手術動画が記録・保管され、教育や診療の質向上に活用できる体制が整いました。特に、私の専門領域では内視鏡外科学会・肝胆膵外科学会の専門医取得に手術動画が必須であり、若手医師の育成・確保にも寄与する重要な基盤です。

さらに、この映像システムにより電子カルテ上で手術のリアルタイム映像が確認できるようになり、外来診療中であっても進捗状況を把握できるため、手術管理面でも大きな利点があります。同システムは内視鏡室・血管造影室にも導入され、内視鏡処置やカテーテル治療の記録も可能となりました。

今後、地域医療構想の見直しにより手術機能の集約化が進むことが予想されますが、今回のインフラ整備は当院が地域医

療へさらに貢献していくうえで大きな前進となるものです。引き続き、皆様からのご紹介を賜りますようお願い申し上げます。



Activities Introduction: 2

手術室改修について

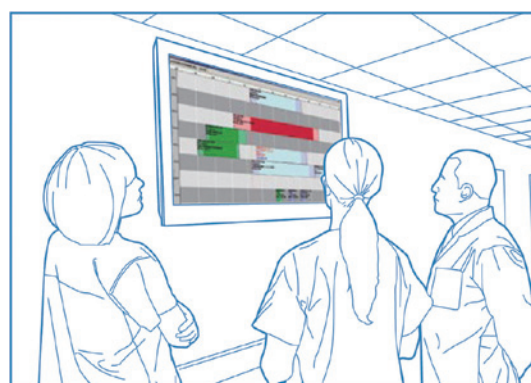
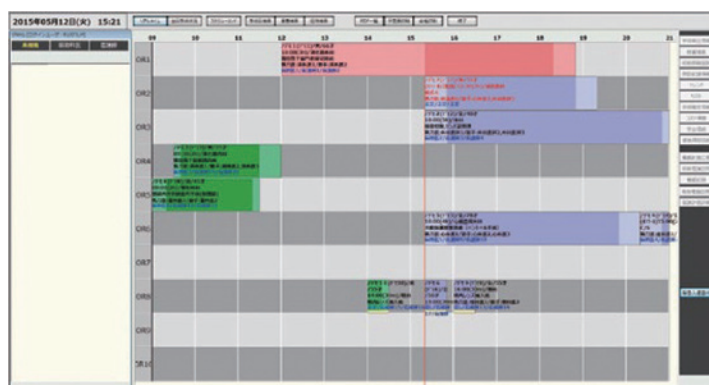
くすもと
こう
剛
麻酔科部長 楠本

2025年10月より、患者さんに安全かつ質の高い医療を提供するため、手術部門の業務効率化と情報の一元管理を目指して新たに医療情報システムを導入いたしました。

新しい医療情報システムは次の特徴を備えています。

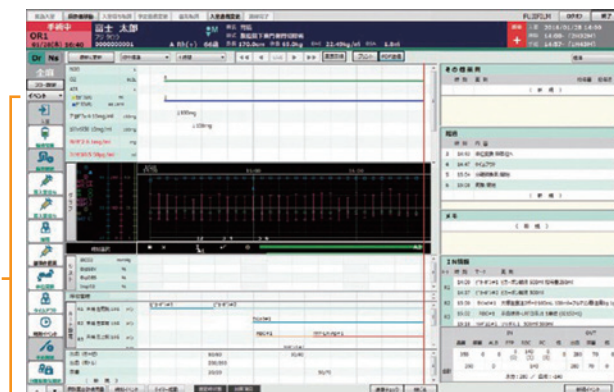
1. 手術スケジュールの管理

手術の日時調整や各手術室の状況を正確かつリアルタイムに把握でき、スムーズかつ効率的に手術を運営できます。



2. 麻酔記録の電子化とリアルタイム入力

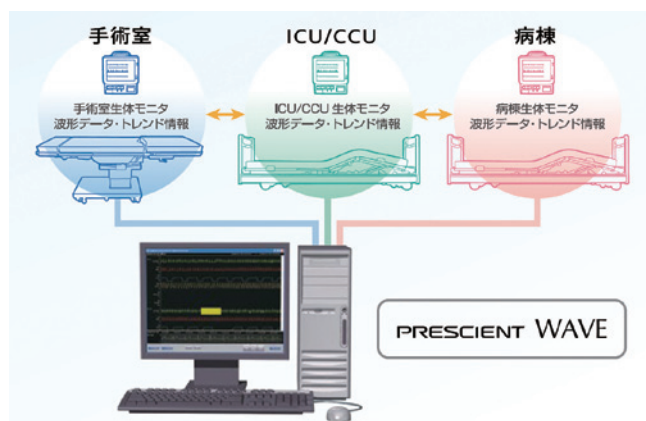
麻酔管理に関する多種多様な情報をリアルタイムで詳細かつ正確に記録します。また一部の情報は自動で記録されるため、麻酔科医や看護師が手術を受けている患者さんの全身管理に一層注力することができます。



3. 患者情報の統合管理

電子カルテと連携し、患者さんの最新情報を手術に関わる職員で共有することができます。手術に必要な全情報を把握しやすくなり、医療事故の防止に努めることができます。

患者さんに安心して手術を受けていただけるよう、当院はこれからも先進的な取り組みを続けてまいります。引き続き、皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



「チームで支える 食物アレルギーの成人移行支援」

福岡東医療センター小児科では、2008年から専門的な食物アレルギー診療に取り組んできました。乳幼児期に発症した食物アレルギーの多くは就学前に改善しますが、残る約2割の子どもたちは重症であることも多く、長い時間をかけて向き合う必要があります。原因食物の除去や栄養管理、そして万が一の誤食に備えた対応など、日々の生活には多くの工夫と知識が求められます。

そこで今年、新たに医師・管理栄養士・看護師による多職種チームで「食物アレルギー成人移行支援プログラム」を立ち上げまし

た。対象は、食物負荷試験で入院した小学4年生から高校生の子どもたち。アレルギーや栄養、食品表示などの基礎知識を「知る」ことから始め、「わかる」で理解を深め、緊急時対応や安全な食生活を自ら実践「できる」「やっている」段階まで、4つのステップで無理なく進める構成にしています。

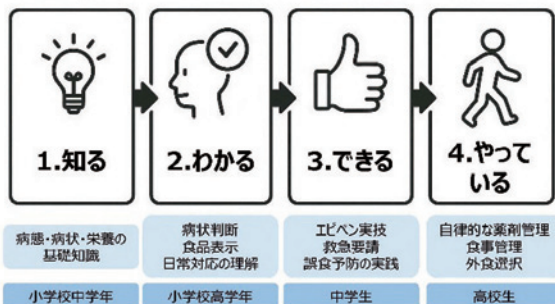
ワークシートを用いた学習と発表を通じて、互いの経験から学べるピアサポートの要素も大切にしています。自



分では気づかなかった視点にハッとする場面も多く、参加者や保護者からは好評です。各ステップの確認テストに合格すると修了証が授与され、次回入院時には次の段階へと進みます。私たちは、一人ひとりの理解度とペースに合わせて継続した支援を行い、子どもたちとそのご家族が、自信を持って次のライフステージへ進めるよう寄り添いながら、子どもたちのより安心した未来と一緒に考えていきます。

患者教育のステップ

Miller's Pyramid に基づいて、4ステップに分けて段階的な支援を行う



地域医療連携の会を開催しました!

地域医療連携係長 なかに 中谷 あやこ 綾子



開会挨拶 中根 博 院長

令和7年10月15日(水)地域の医療機関の方々との連携強化と親睦を深めることを目的に、病院内で初めての地域医療連携の会を開催しました。院外から医師43名、看護師やコメディカル43名の総勢86名、院内61名の方々にご出席いただきました。開会に先立ち、当院の中根博院長より、日頃の連携へのご理解とご協力について感謝をお伝えし、地域の医療

機関の方々顔を合わせる機会を作り、今後の更なる連携に繋げていく会にしていきたいと挨拶がありました。第1部では、当院からのご案内を行いました。まず始めに、内山統括診療部長より、10月に手術室が1室増え全5室となり、より多くの手術に対応できること、同時に新麻酔システムを導入し、より安全な周術期管理ができるようになることが紹介されました。次に、渡辺放射線科部長より、新しく更新された放射線治療機器について紹介がありました。今後IMRT治療も開始し、新たに、前立腺腫瘍、脳腫瘍の術後照射が可能になることを説明されました。



司会
高田 昇平 副院長

第1部会場の様子



次に、新任の麻酔科部長と脳神経外科医長、腎臓内科部長の紹介がありました。また、中山栄養管理室長より、当院の給食の工夫や季節に応じた食事内容について紹介がありました。中谷地域医療連携係長より、地域医療連携サービス「カルナコネクト」を活用した紹介事前予約について、活用方法のメリットについて説明がありました。カルナでは以下のことができます。

- ①CT・MRI・骨シンチ・上部内視鏡の検査予約
- ②紹介患者の診療予約と診療情報提供書作成

C@RNA Connectを活用のメリット

- ◆C@RNAで診療予約していただければ、紹介される先生が予約日時を決めることができます。
 - ◆予約票のFAX送信や福岡東医療センターからの診療予約票を待つことなく、受診日を患者さんに速やかにお伝えできます。
 - ◆診療の予約をしていただければ、診療情報提供書は後から入力することが可能です。
(診療情報内容は、予約入力された翌日までをお願いします)
 - ◆C@RNAで予約枠が埋まっており、早めの受診を希望される場合は、事前予約担当にご連絡ください。
- TEL : 0120-057-220 FAX : 092-405-7597



麻酔科部長
楠本 剛 先生



腎臓内科部長
黒木 裕介 先生



脳神経外科医長
福本 博順 先生

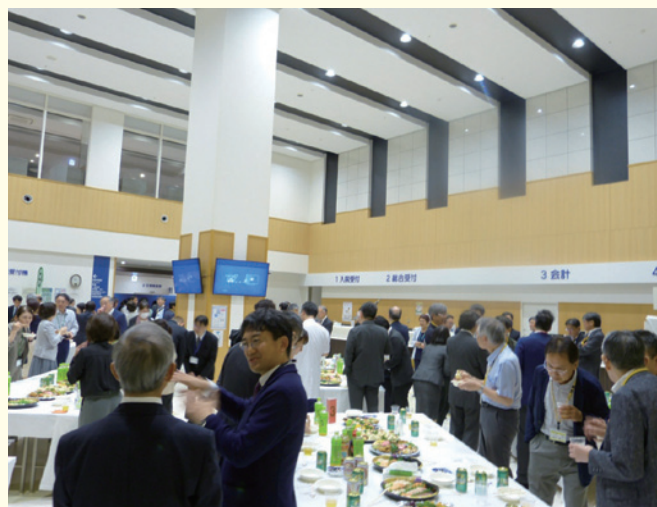
第2部の懇親会は会場を移し、来賓挨拶を粕屋医師会会長の松尾喬之先生、乾杯を宗像医師会会長の宮原道生先生に行って頂き、賑やかなムードでスタートしました。当院の医師やコメディカルも参加し、軽食をとりながら1時間という短い時間ではありましたが、病院の雰囲気も感じてもらえ、職種をこえて親睦を深めることができました。参加された方からは、「和やかな雰囲気があり、直接顔を見て話すことで、今後も頼みやすい関係を作れた」、「直接先生と話す機会が少ないので、色々と話ができてよかった」、「病院の中で開催するのもいいですね」などのご意見もいただきました。多くの方が各テーブルを回りながら、どこも賑やかな景色であり、これからも地域医療連携の会を継続していく必要があると改めて感じました。今後も地域医療支援病院としての役目を果たせるように、地域の医療機関の方々と協力し、連携を強化していきたいと思えます。



来賓挨拶
粕屋医師会会長
松尾 喬之 様



乾杯
宗像医師会会長
宮原 道生 様



懇親会の様子



今後も地域の医療機関の方々と顔の見える関係づくりを大切にし、地域医療に貢献していきます!



第79回国立病院総合医学会報告

(放射線科)

うえの りょう 凌 放射線科 上野

2025年11月7日、8日に金沢で開催された第79回国立病院総合医学会において、放射線科から4演題の発表を行いましたので、簡潔に内容を報告させていただきます。

「撮影条件の違いがHybrid Gridのコントラストに与える影響」 診療放射線技師 坂本 菜緒

本研究では、Hybrid Grid法という技術を用いて被ばくを低減させつつ画質を向上させる検討を行いました。Hybrid Grid法では、薄い模型よりも厚い模型でより高いコントラストが得られる傾向が見られたことから、体格の大きい患者さんや撮影線量が十分でない場合でも、より鮮明な画像を得られる可能性が示されました。

福岡東医療センター 放射線科
○坂本菜緒 川津大地 堀田竜也 堀井飛砂人 西田浩尚

撮影条件の違いが Hybrid Gridのコントラストに与える影響

Introduction
X線撮影における画質改善方法には、実グリッド(Real Grid:RG)を用いた方法と仮想X線補正処理(Virtual Grid:VG)を用いた方法がある。仮想X線補正処理は、被写体等から散乱線量を推定しグリッド透過後のX線量を計算的に再現することで散乱線を補正し、薄層コントラストを向上させる「コントラスト改善処理」と、画像中の散乱線由来のノイズ成分を低減し、靭性を改善する「靭状改善処理」で構成される。

近頃は、RGとVGを組み合わせた方法(Hybrid Grid:Hyb)による画質改善の検討がされている。当院ではこれにて、撮影条件を固定した基礎的検討を行ったが、mAs値や管電圧などの撮影条件が変化した際の検討は行っていない。

Purpose
異なる撮影条件下において Hybrid Grid 法が画質コントラストに与える影響を調査した。

Material
・X線撮影装置：D150LC-40, D150LC-41 (SHIMADZU)
・DRシステム：DR-ID 300CL, DR-ID 900 (SHIMADZU)
・FPD：CALNEO Smart C77 (FUJIFILM)
・グリッド：MS-Way Grid (三田製作所)
グリッド窓 40x4cm, グリッド比 6:1, 中間物質 アルミニウム
・ファンтом：CDRADファンтом (Artinis Medical Systems), アクリルファンтом
・画像診断ソフト：Image 3, CD RAD Analyser (Artinis Medical Systems)

Methods
✓画質コントラスト評価
フラットパネルディテクタ(FPD)の上に、RG, CD RADファンтом, アクリルファンтомを10cmのように配置した。RGはグリッド比6:1で固定し、VGは2つの組み合わせをそれぞれHyb(2:1), Hyb(4:1), Hyb(6:1)とした。管電圧を70, 80kV, mAs値を5, 10, 20, 40mAsと変化させて、アクリル厚は10cm, 20cmに分けて3回撮影を行った。得られた画像をImage 3, CD RAD Analyserを用いて解析し、IQEinvを算出した。

Real Grid	Virtual Grid
Hyb 2	2:1
Hyb 10	6:1
Hyb 12	6:1

Result① Acrylic thickness(10cm)

Result② Acrylic thickness(20cm)

Discussion
アクリル厚10cmでRGとHybのIQEinvの差が顕著ではなかったのは、RG単体で散乱線が十分に除去できていたことに加え、検討した撮影条件でも十分な線量を担保できていたためだと考えられる。一方、アクリル厚20cmにおいて、撮影条件が少い部分ではHybのIQEinvはRGに比べ大きく上回った。これらのことから、散乱線補正処理と靭状改善処理の両方を併用したHybの効果が、RGとHybに比べて顕著に高くなる。また、撮影条件が高くなるにつれてRGとHybにおけるIQEinvの差が小さくなったのは十分な線量下では靭状改善処理の影響が相対的に小さくなったためだと考えられる。

Conclusion
Hybrid Grid法は被写体厚が小さい場合、撮影条件の変化がコントラストに与える影響は小さいことが判明した。一方、被写体厚が大きく、検出線量が入射線量が十分でない場合コントラストを改善できる可能性が示唆された。

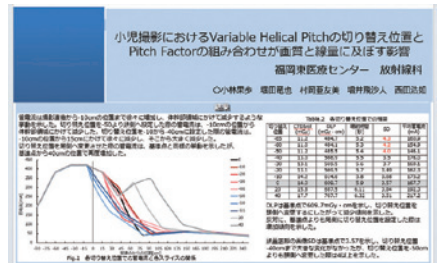
「心筋血流シンチグラフィ検査のマスク先行法における至適パラメータの検討」 医用画像主任 上野 凌

心筋シンチにおいて、心臓の観察の妨げになる集積の影響を最小限にする、マスク先行法という解析法のパラメータについての研究を行いました。この研究によりマスク先行法のパラメータの挙動を把握することができ、従来の解析法と同等の画像を提供できることが可能となりました。



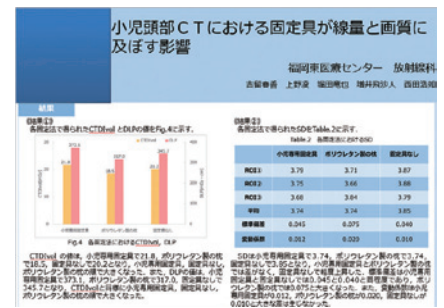
「小児撮影におけるVariable Helical Pitchの切り替え位置とPitch Factorの組み合わせが画質と線量に及ぼす影響」 診療放射線技師 小林 果歩

乳幼児のCT検査における検査時間の短縮や被ばく線量の低減を目的として研究を行いました。一度の撮影で複数の部位を撮影することができvHPという機能を活用し、撮影方法を工夫することで、画質の劣化を最小限にしつつ、被ばく低減の可能性が示されました。



「小児頭部CTにおける固定具が線量と画質に及ぼす影響」 診療放射線技師 吉留 春香

乳幼児の頭部CTを撮影する際に使用している固定具が、被ばく線量と画質に与える影響について研究を行いました。この研究により、固定具を使用しても被ばく線量の基準値以下で検査可能であり、画質にも影響しないことから、臨床に有用な画像を提供できることが明らかになりました。



4演題のうち「撮影条件の違いがHybrid Gridのコントラストに与える影響」という題名で発表させていただいた演題がベストポスター一賞に選ばれました。今回の学会では、その他の演題についても多くのご意見やご質問をいただき、大変有意義な機会となりました。これらの学びを今後の業務にも活かし、より良い撮影技術の追求と質の高い画像提供に努めて参ります。



第79回国立病院総合医学会報告

(リハビリテーション科)

きのした みさ
作業療法士 木下 未紗

2025年11月7日、8日に石川県で開催された「第79回国立病院総合医学会」にリハビリテーション科から計4名が参加し、日頃の研究・臨床成果を発表しました。

発表演題と成果

発表された演題は以下の通りです。これらの研究・報告を通じて、当院の地域医療への貢献や質の高い医療連携、そしてコロナ禍における新たな取り組みが示されました。



口演

福岡東医療センターを起点とした脳卒中地域連携パスの利用状況について

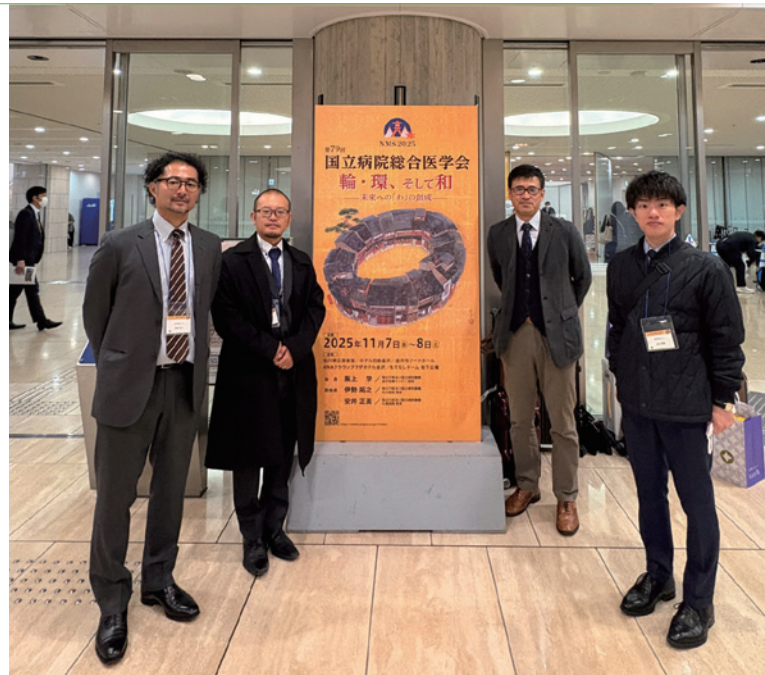
地域全体で切れ目のない脳卒中リハビリテーションを提供する枠組みの現状と効果を報告しました。

院内での地域公開講座再開の取り組み～コロナ禍を経て～

感染対策を講じながら、住民の皆様への情報提供と健康増進を目的とした活動を再開した経緯と工夫を報告しました。

中国四国グループとの共同研修会実施の報告

他施設との積極的な連携による、専門職の知識・技術向上への取り組みを紹介しました。

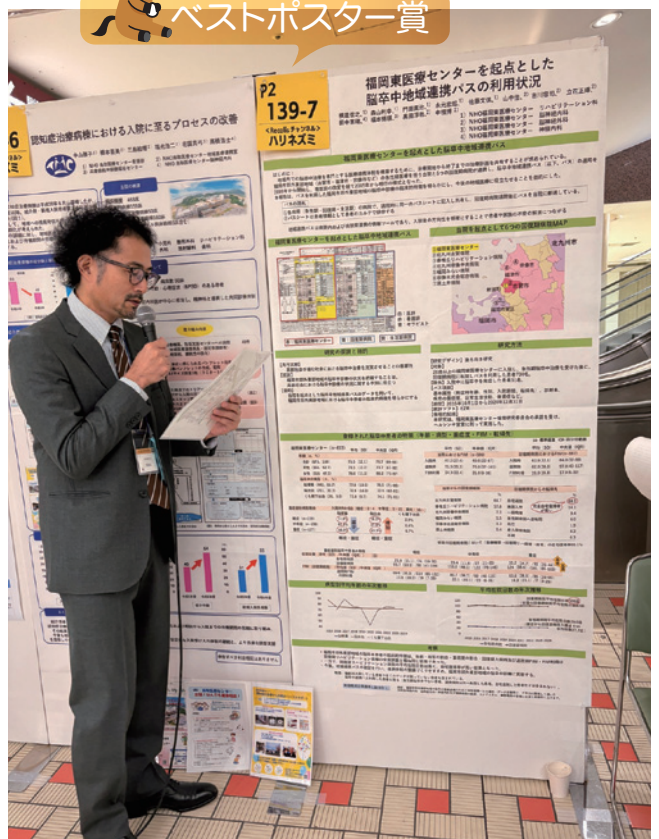


ベストポスター賞受賞しました！

理学療法主任が発表した演題「福岡東医療センターを起点とした脳卒中地域連携パスの利用状況について」が、数多くの発表の中から特に優れたものとして選ばれました。これからも、リハビリテーション科一同、受賞を励みに、地域医療の質の向上と、患者さんお一人おひとりへの最善のサポートを目指してまいります。



ベストポスター賞



当院の

おすすめスポット



薬剤部 調剤機器のご紹介

のぐち はな みやざき くるみ
薬剤師 野口 華 / 宮崎久瑠美

患者さんの薬物療法に欠かせないおくすりは、薬剤師が毎日調剤しています。
今回、薬剤部で使用している調剤機器についてご紹介いたします。

錠剤分包機は錠剤を一包装する装置であり、患者さんへの安全な薬剤提供と調剤業務の効率化を実現する機械です。



錠剤分包機 (令和6年12月更新)



タッチパネルで操作が可能です!



分包機は夜勤者が毎日掃除しています!



散薬分包機は、粉薬の分包作業を自動化する装置であり、調剤精度と業務効率の向上に大きく寄与しています。手作業による分包では、ヒューマンエラーのリスクや時間的負担が課題となっていました。本機の導入により誤分防止・作業標準化・衛生管理の強化が実現可能になりました。

分包機の内部には円盤があり、薬剤を均等に撒けるような仕組みになっています



分包機内部

注射室



調剤室



DI室



現在薬剤部は、薬剤師18名、薬剤助手5名の計23名で業務に従事しています。内服薬や注射剤の調剤や抗がん剤調製、病棟薬剤業務、チーム医療への参加など、薬物治療の向上に努めています。「薬剤師ってどんな仕事をしているの?」と思われるがちですが、病院の縁の下の力持ち的存在になれるように日々励んでおります!お薬に関して何かご不明な点がありましたらお気軽にご相談ください。

古賀市健康福祉まつりについて

ことう ひるき
庶務班長 後藤 大樹



令和7年10月19日の日曜日、第39回古賀市健康福祉まつりが開催されました。心配された雨も降ることなく、福祉まつり全体で約1,800の方が来場され、無事にイベントを終えることができました。

当院は毎年、古賀市健康福祉まつりに共催しています。市民の皆さんの健康福祉増進に貢献すべく、今年も当院から3種類のブース出展を行いました。①お菓子を使った調剤体験や白衣・看護衣を着て記念撮影ができる『こども薬局体験・こども白衣体験』。②がん模型パネルやパンフレットを用いた『がん検診啓発』。③介護予防のために2ステップで運動能力を評価す

る『ロコチェック』を企画し、どのブースも老若男女問わず多数の方にご参加頂きました。

今回はブース内だけでなく、受付周辺の装飾・呼び込みにも力を入れ、ハロウィンの時期でもあることからハロウィンを模した風船、装飾等を用いながら、福岡東医療センターの出展を前回に増してアピールを行い、来場者の方がより多くのブースに立ち寄っていただけるように努めました。

最後にこの場をお借りして、来場者の皆様、実行委員会関係者の皆様、当院参加職員の皆様に御礼申し上げます。



編集後記

この編集後記を書いているのは11月初めですが、わずか2週間前にはツクツクボウシが鳴き、つい最近まで半袖で過ごしていました。それが一転して、急にコートが必要な気候となり、好きな季節であるはずの秋はいったいどこへ行ってしまったのかと感じています。私たちも気候変動に合わせた暮らし方を模索していく時代なのかもしれません。

医療を必要とする人口動態も、同じように絶えず変化を続けています。新たな地域医療構想では、地域の医療機関機能を①急性期拠点病院、②高齢者救急・地域急性機能、③在宅医療等連携機能、④専門等機能の4つに分類する案が示されています。当院は地域の急性期拠点病院としての役割を果たし続ける必要があります。

人口構造の変化、そして地域医療構想の方向性に応じて、当院も着実に変化を重ね、地域医療連携をさらに強化してまいります。

(統括診療部長 内山 秀昭)

外来担当医一覧 令和8年1月1日現在 ※最新の担当医はホームページをご覧ください。https://fukuokae.hosp.go.jp/

受付時間

1) 午前8時30分から午前11時00分まで。 ※予約の方は、指定された時間において下さい。
 2) 土・日・祝祭日・年末年始は休診です。当院は救急告示病院です。救急の方は、診療時間外でも受付いたします。

診療科		月	火	水	木	金	
内科新患(別紙参照)		当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	
脳神経内科 (新患予約制)	新患	田中 恵理	吉川 容司	山中 圭	田中 恵理	黒田 淳哉	
	再来(脳血管内科)	吉川 容司	中根博・山中圭	黒田 淳哉	林田 寛之	立花 正輝	
	再来(神経内科)	-	田中 恵理	田中 恵理	九大医師	-	
糖尿病	新患	大城 彩香	-	川野 聡子	原田 久嗣	堤 礼子	
	再来	堤礼子・原田久嗣	-	大城彩香・堤礼子	川野 聡子	大城 彩香	
血液内科	新患	-	担当医	担当医	-	担当医	
	再来	亀崎 健次郎	亀崎 健次郎	黒岩 三佳	-	黒岩三佳・坂本佳治	
消化器科 (消化管・肝臓)	肝	高尾 信一郎	多田 靖哉	大宮 絵美里	多田靖哉・高尾信一郎	-	
	膵胆	藤山 隆	大越 恵一郎	松尾 享	松尾 享	大越 恵一郎	
	消化管	藤井 宏行	將口 佳久	武田一泰・小玉将義	田中 宗浩	佛坂 孝太	
腎臓内科	新患	中野 利恵子	黒木 裕介	黒木 裕介	荒瀬 北斗	橋本 諒司	
	再来	黒木 裕介	中野 利恵子	橋本 諒司	黒木 裕介	荒瀬 北斗	
循環器科 (新患予約制)	第一診察室	小池 明広	小池 明広	小池 明広	小池 明広	小池 明広	
	第二診察室	畠山 究	入江 圭	中村 洋文	野崎 俊哉	升井 志保	
呼吸器科	新患	中野 貴子	中富 啓太	高田 昇平	山下 崇史	神宮司祐治郎	
		中富 啓太	高田 昇平	山下 崇史	高田 昇平	山下 崇史	
	再来		神宮司祐治郎	中野 貴子	出雲 正浩	中富 啓太	
			沖崎 恵理	出雲 正浩	出雲 正浩	中野 貴子	
		吉田 京子	神宮司祐治郎				
感染症外来			肥山 和俊			肥山 和俊	
呼吸器外科		濱武 大輔 平田 朋久	(手術日)	(濱武 大輔) 吉田 康浩	(手術日)	(手術日)	
外科 (新患予約制)	消化器	内山 秀昭	休診(急患対応可)	井口 友宏	休診(急患対応可)	内山 秀昭	
		由茅 隆文 馬場 崇平		長尾 吉泰			
	乳腺 血管	内山 秀昭	休診(急患対応可)	石田 真弓 松本 拓也	石田 真弓 休診(急患対応可)	休診(急患対応可) 休診(急患対応可)	
整形外科 (新患予約制)	新患	松下 昌史	安達 淳貴	(手術日) 外来休診	松下 昌史	(手術日) 外来休診	
		岡本 重敏	光吉 良輔		清水 大樹		
		上妻 隆太郎			上妻 隆太郎		
		釘本 裕三 野口 真妃					
再来		清水 大樹 野口 真妃		岡本 重敏 安達 淳貴			
脳神経外科	新患	福本博順・宮川健	福本 博順	担当医	福本 博順	福本博順・宮川健	
	再来	宮川 健	福本 博順	-	福本 博順	宮川 健	
皮膚科 (新患予約制)		中村 美沙 成富 真由香	中村 美沙 成富 真由香	中村 美沙 成富 真由香	中村 美沙 成富 真由香	中村 美沙 成富 真由香	
小児科	午前	一般	岩屋 友香 泊 由里子	西村 真直	松尾 光通	村田 憲治	
		専門(予約)	増本夏子・中原和恵	松尾光通・川上沙織	李守永・中原和恵・松尾光通	李守永・西村真直	李・中原・吉元(第1・3・5) 詔井(第2・4)
	午後	専門(予約)	李 守永	水野勇司・松尾光通	李守永・中原和恵	増本 夏子	李守永・中原和恵
			中原 和恵	血液(江口克秀)	循環器(寺師英子)	李 守永	川上 沙織
	春日井悠(第1・3・5) 吉元陽祐(第2・4)	アレルギー(第2・4) 吉元(第1・5) 春日井(第3)	岩屋 友香	村田 憲治	村田 憲治	アレルギー新患 (喘息検査)	
放射線科		新患	月～金 渡辺 哲雄(※事前に必ず電話予約が必要です)				
	再来	渡辺 哲雄	渡辺 哲雄	渡辺 哲雄	渡辺 哲雄	渡辺 哲雄	
歯科口腔外科		吉田 将律 田尻 祐大	吉田 将律 田尻 祐大	吉田 将律 田尻 祐大	吉田 将律 田尻 祐大	(再来のみ)	
婦人科	新患	内田聡子・田中章子	内田聡子・田中章子	内田聡子・田中章子	(手術日)	内田聡子・田中章子	
	再来	内田聡子・田中章子	内田聡子・田中章子	内田聡子・田中章子		内田聡子・田中章子	

- 物忘れ外来 完全予約制(内科外来内247)【担当医 田中恵】
『金曜日9:00～10:00』
※予約受付は平日月～金13時～16時にTEL予約
- 痙縮外来 完全予約制 『火曜日・木曜日 午後』
- 嚥下外来 完全予約制 『月曜日』
- 緩和ケア外来 完全予約制(担当看護師内8184)
『火曜日・木曜日 午前』

独立行政法人国立病院機構
福岡東医療センター

〒811-3195 福岡県古賀市千鳥1丁目1-1
 HP https://fukuokae.hosp.go.jp/
 TEL 092-943-2331 フリーダイヤル0120-212-454(地域医療連携室)
 FAX 0120-087-437